第3学年2組学級活動（1）学習指導案

町田市立　小山小学校
2026年11月13日（金）5時間目
対象　第３学年２組　３３名
指導者　主任教諭　上岡綾

1　議題「クラスをよりよくする『3年2組のキャラクターグッズ』を作ろう」

2　議題について

（1）児童について（児童観）

本学級の児童は、学級生活をよりよくしたいという思いをもち、学級活動の話し合いや決定したことの実践に進んで取り組もうとする意欲が高い。また、他教科（算数など）においては、自分とは異なる解き方や異論に対して「なるほど」と反応し、新しい気付きや多角的な視点としてプラスに受け止める素地が育ちつつある。

一方で、自分の考えや理由をもちながらも、全体の前での発言には気後れしてしまう児童が見られる。また、学級活動（1）の意思決定の場面においては、意見を「賛成か反対か」という二項対立で捉えがちであり、自分とは異なる意見の背景にある友達の願いや思いにまで目を向けて肯定的に受け止めること（他者受容）には課題が見られる。さらに、全体発言に至らなかった児童も含め、自分がどのような思いや役割をもって話し合いに参加していたかを自覚すること（自己理解）も不十分である。

そこで本実践では、活動の終末に「①自分が頑張ったこと（自己理解）」「②友達のよかったところ（他者受容）」「③次に生かしたいこと（実践意欲）」という 3 つの観点を設けた振り返りシートを活用する。 話合い中の自身の言動や友達の発言・思いを省察する機会を設けることで、発言の有無にかかわらず自らの関わり方を価値付けて自己理解を深めるとともに、自分と異なる意見のよさや友達の配慮を受け入れる他者受容の態度を育み、主体的に学級生活を創造しようとする意欲へとつなげていきたい。

（2）今までの話合い活動

月日	話合い 活動	「議題名」・児童の様子　◇教師の指導
4/30	第１回	「友だちのことをもっと知って仲良くなれる遊びをしよう。」 ・これまで遊んできたフルーツバスケットに「自分の好きなことを言い、そのことと同じ人が動く」という工夫を加える意見が出たことで議題に沿った話し合いをすることができた。 ◇発言ができなくてもうなずいたり拍手をしたりして反応することを指導した。
5/21	第２回	「学級目ひょうを決めよう。」 ・たくさんの意見が出るが、その意見をまとめることが難しかった。 ◇それぞれの考えを、分類しながらまとめていく方法を指導した。
6/12	第３回	「山田先生とのお別れ会をしよう。」 ・目的意識をもって話し合いに参加できるようになってきた。 ◇提案理由に沿った意見を出せたことを価値付けた。
7/10	第４回	「1学期の頑張りを喜び合える足あとまつりをしよう。」 ・「好きなものバスケット」を「頑張ったことバスケット」にし、以前の経験を生かした意見や提案理由に沿った意見が出せた。 ・「心配意見」と言いつつ、指摘するだけの意見になりがちだった。 ◇「心配意見」を出す際は、心配ごとが改善するような考えも添えることで、よりよい話し合いにることを指導した。（※心配意見 4研究主題に迫るための手だて【他者受容】①参照）

9/15	第５回	「クラスのマスコットを決めよう。」 ・みんなの意見のよいところを生かそうとする意見がたくさん出た。 ◇それぞれの意見を大切にすることが、みんなが納得して決めることにつながることを全体で共有した。
9/29	第６回	「3年2組が楽しくなるような係をえらぼう。」 ・比べながらまとめることがスムーズになった。 ◇司会に助言する姿や友達の考えを「こういうこと？」と確認する姿を価値付け、次の話合いの意欲につながるようにした。
10/7	第７回	「オヤマリンピックで気合が入る『まほうの言葉』と、それをかざるグッズを決めよう。」 ・友達の意見をつなげることで、話題から逸れることなく話合いができた。 ◇「心配意見」を改善する意見が出たことで、誰もが納得できるかたちで話し合いがまとまったことを価値づけた。

(3) 議題選定の理由

本議題は、児童の議題カードから生まれたものである。

本学級の児童は、運動会に向けた学級会において「魔法の言葉（合言葉）」を決定し、それを支えに互いに声をかけ合いながら練習や本番に取り組むことで、運動会を成功させ大きな達成感を味わうことができた。

しかし、こうした行事による達成感や団結力は、意図的な指導を行わなければ時間の経過とともに薄れ、日常の学級生活へと還元されにくい傾向がある。そこで、運動会の成功体験や「魔法の言葉」に込めた思いを思い出だけで終わらせず、これからの学級生活（日々の授業、係活動、友達関係など）につなげていく「きっかけ」として、学級キャラクターを使ったグッズ作りを計画した。単に「欲しいグッズを作る」活動にするのではなく、「これからのクラスをどうしていきたいか」「どんな場面でそのグッズが自分たちの支えになるか」という“込める思い”や“役割”を話し合わせることで、運動会で生まれた団結力や意欲を日々の学校生活へ広げていきたいと考え、本議題を設定した。

3 学級活動(1)「学級や学校における生活づくりの参画」の評価規準

	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。学級会の進め方や意見の比べ方、合意形成の仕方を身に付けている。	楽しい学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について、多様な意見のよさを比べ合いながら合意形成を図り、協力して実践している。	よりよい学級生活や人間関係を築くために、見通しをもったり振り返ったりしている。自己のよさを発揮し、多様な他者と協働して取り組もうとしている。

4 研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

① ワークシートを活用して考えを可視化することで自信をもって参加できるようにする工夫

・全体で手を挙げて発言することに気後れしてしまう児童も、「自分の考えをもっていること」自体を自覚できるようにする。

② 振り返りシートの観点を明確にする工夫

・「自分が頑張ったこと」を記入する際、単に「発言できたか」ではなく、多様な頑張りを見つけられる「視点の視覚化」を提示する。

② 「頑張りの観点リスト」を提示する工夫

・「発言した」「理由を考えて書いた」「友達の意見を頷きながら聞いた」「自分の考えを柔軟に変えた」「決まったことに賛成した」など。前時の自分から本時までにどのように成長したのか、振り返ることができるよう、学級

会ごとの振り返りが一覧で見られるようにする。

【他者受容】

① 多数決に頼らない合意形成のプロセスの工夫

・児童が「賛成・反対」の二項対立で捉えるのではなく、異なる意見の背景にある友達の「学級をよくしたい」という願いや思いに目を向けられるように工夫する。 具体的には、反対意見を「心配意見」とネーミングし、単に反対するだけでなく「ここが心配だから、こうしたらどうかな」と理由と代替案をセットで発言・比較できるようにする。これにより、自分と異なる考えを拒絶するのではなく、「学級をよりよくするための貴重な視点」として受け入れるとともに、納得解に向かって折り合いをつける手だてとする。心配意見も尊重し、折り合いをつけて「新しい考え（折衷案）」や「納得解」をつくる話合いのよさを、実践をもって価値付ける。

② 振り返りで「友達のよかったところ」の具体化

・振り返りシートに自分の言動を振り返るだけでなく、友達のよかったところや思いに注目できるように、「友達のよかったところ」も記入するよう、項目を設定する。話合いのなかで、友達の言動に注目し、よさを見付け、生かすような風土を育てていく。

③ 「つなぎ発言」や話型のモデル提示やリアクションの取り方の掲示

・「〇〇さんに付け足します」など、他者の意見を尊重しながら対話を進めるスキルを身に付ける指導を行う。また、他者の意見を受け入れる雰囲気づくりとして、「あいづち名人」の指導を行い、リアクションの例を掲示する。

④ 板書による思考の可視化・操作化

・意見を短冊で似た者同士で分類・整理して意見の共通点や相違点を目に見える形にする。それぞれのよさを生かした学級の納得解を見付けられるよう、思考を可視化することで、一つ一つの意見のよさや違いを明確にする。

5 事前の活動

日時	児童の活動		指導上の留意点
	計画委員会の活動	学級全体の活動	
11/2 （月） 中休み	・議題を確認する。		・学級の現状を踏まえて、どの議題について話し合ったらよいか考えながら選べるようにする。
給食の時間 帰りの会		・計画委員会で確認した議題案から、学級全体で議題を選定する。	・学級全体で、議題に対して共通の課題意識をもって選定できるようにする。
11/4 （水） 中休み	・司会グループの役割分担をする。 ・提案理由を深める。		・提案者の思いがより伝わるよう、「思いの軸」が引き出し、提案理由がつくれるようにする。
帰りの会		・提案理由と話し合うことを確認する。	・提案者が思いを伝え、学級全体が議題に向けて共通理解ができるようにする。 ・話合いの流れを全員で共有できるようにする。
11/5 （木） 朝の会		・提案理由に対し学級で共通認識をもつ。	・提案者の思いを具体化し、学級全体が共通認識をもてるようにする。

中休み	・話合いの進め方の確認 （学級会シートの作成）		・話し合うことと決まっていることが明確になるように助言する。
帰りの会	・学級会シートを配布する。		
11/6 （金） 朝の会		・決まっていることを確認し、学級会シートに自分の考えを記入する。	
中休み	・回収したシートを確認し、出ている意見を整理して書き出す。		・提案理由に沿っている考えには、印をつけるよう助言する。
11/9 （月） 中休み	・どのような流れで話し合うか、考える。 ・活動計画を作成する。		・それぞれの役割がどのように行動したらよいか、見通しがもてるようにする。 ・これまでの学級会を振り返り、どのようなことに気を付けていけばよいか、計画委員で共通認識がもてるようにする。
帰りの会	・書き出したアイデアをクラスルームで共有し、告知する。		・友達の考えに触れるなかで、新たに意見をもってもよいことを伝える。
11/10 （火） 中休み	・活動計画を作成する。 ・それぞれの役割で気を付けたいことを再度確認する。		・話合いの進め方について助言する。
11/11 （水） 中休み	・板書の準備を行う。		
11/12 （木） 中休み	・リハーサル		

6 本時の展開

（1）議題

「クラスをよりよくする『3年2組のキャラクターグッズ』を作ろう」

（2）ねらい

運動会で高まった学級の一体感や「魔法の言葉」に込めた思いを振り返り、これからの日常の学級生活をよりよくするための「願い」や「グッズの役割」について話し合うことを通して、お互いの意見を尊重しながら納得のいくグッズのあり方や種類を合意形成し、進んで学級生活を楽しく豊かにしようとする態度を育てる。

（3）提案理由

オヤマリンピックのおうえんグッズを作って、全力できょうぎもおうえんもすることができた。また、クラスで大事にしたい思いをこめたキャラクターができて、名前も決まった。だから3年2組の思いがこもったキャラクターのグッズを作って、3年2組が大事にしたいことをみんなが思い出してがんばれるようにしたい。

（4）決まっていること

・休み時間や学級活動の時間等を活用し、自分たちの手で手軽に簡単にできるもの。

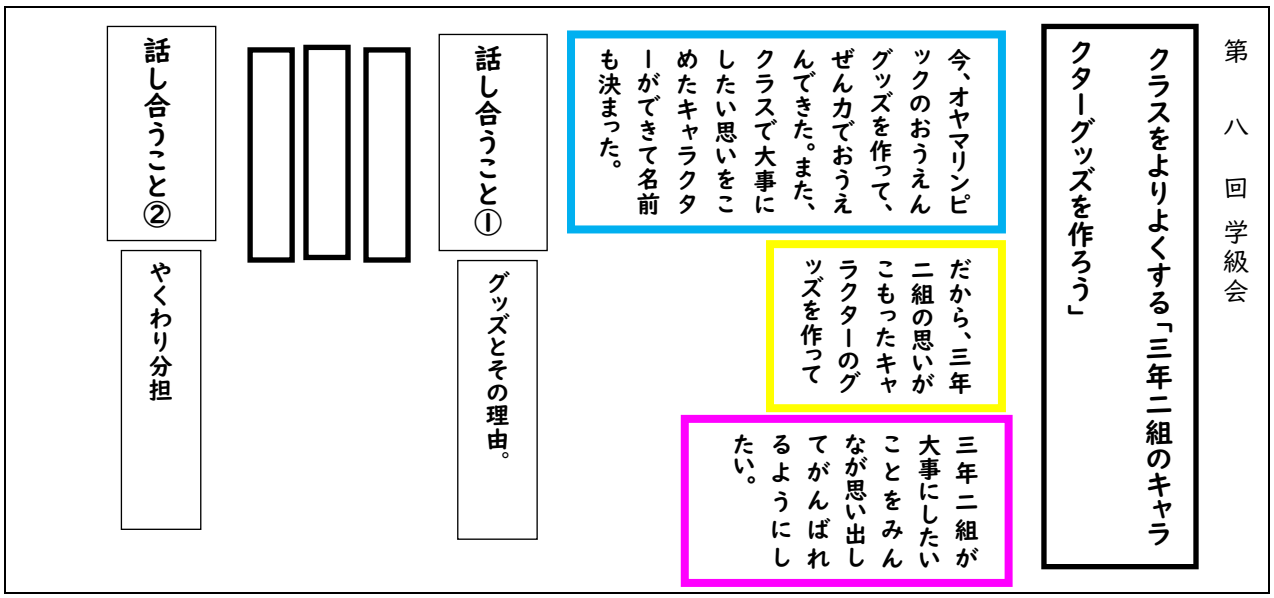
・一人ひとりが持ち歩いて使うもの、または教室に掲示したり置いたりして全員が毎日目にすることがで

きるもの。

(5) 教師の指導計画

	学習活動	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
導入	1 始めの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 話合いのめあての確認 発言は大きな声ではっきりと、聞くがわはみんなにつたわるようなはんのうで、時間内に話合いをやりきろう。 6 決まっていることの確認	
展開	7 話合い 自 他 話し合うこと (1) グッズとその理由 (2) 役割分担 8 決まったことの発表	自己理解① ・ワークシートに自分の考えを事前に書いているので、それを活用することで話合いに参加しやすくする。 ・各自設定しためあてを基に、発言だけでなくリアクションでも話合いに参加するようにする。 他者受容① ・異なる意見の背景にある友達の「学級をよくしたい」という願いや思いに目を向け、互いの意見のよさを生かしたり、「心配意見」をどうしたらよくなるかの視点で発言したりできるようにする。 ・自治的な活動の範囲外に自分たちで気付かないなど、必要な場合は助言をする。特に人権的配慮が必要な場合は指導をする。 ・児童の活動の様子(発言、行動、つぶやき)を記録し、終末の助言で取り上げる。 ○学級をよりよくするためには、どのようなグッズがよいか考え、発言したり、リアクションをとったりしている。 (観察、記録) ○多様な考えを聞き合うなかで、それぞれの意見のよさを比べ合い、意見をよりよくしながら話し合っている。 (観察、記録) 自己理解② 他者受容② ・自分が設定しためあてに対してどうだったか、友達の考えがどのようによかったか、などの振り返りの視点を明確にする。
終末	9 振り返り 自 他 10 先生の話 11 終わりの言葉	・今までの振り返りを踏まえ、自分や友達のよかったところを振り返るよう助言する。 ・本時の児童の言動の中から、よかったところを具体的に挙げて価値付けをし、次への意欲付けをする。 ・次回に向けた課題について助言をする。

（6）板書計画



7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
11/16（月）～ 休み時間	・話合いで決めたことを基に、担当ごとにキャラクターグッズの試作を行う。	・自分の役割を果たせるよう見守り、必要に応じて助言する。
11/25（水） 朝の会	・担当からの発表	・各担当の取組を皆で称賛しつつ、よりよい案があればそこで出してもらいブラッシュアップするようにする。
11/26（木） 学活	・キャラクターグッズを作る。	・実践の振り返りをし、よかった点や改善点を次の一連の学習過程に生かすことができるよう、助言する。